夕刊
磐城新聞
九月二十二日發行
（日曜祭日翌日休刊）

炭礦民俗誌續稿（八）

山口彌一郎

明治四十四年、四十五年等は夫々經濟界の變化に依り交際金、弔慰金等の値上げに關して議し、大正二年には新坑夫にして取立の翌年規定の義務を果さず中間逃亡せる者にして再度歸山せる者は其の歲新規取立の坑夫同樣從前用途をなせる幾月分其の義務を果すべきを議し、併せて徴兵餞別金等に關しての決議がある。決いで大正六年、八年の主として祝儀　弔慰金に關する決議を經て、大正十年四月十六日には臨時大會を開催、次の議項が決議されてゐる

一、帳控浪人は我が山にて救助する事
二、今後調製帳友子一人に付特別救助一等貳拾錢之事　二等拾七錢の事　三等拾五錢之事
三、前帳買上の事
三年以下金貳拾圓之事
五年以下金拾五圓之事
五年以上は全部拾圓之事
但し帳面買上は一ヶ月一册宛買上之事古きものより整理する事
四、茂木、蒲生弘作、大槻茂、矢垣芳之助
右四名のものは金貳拾五圓にて買上之事

これは奉願帳、寄附帳の下附數が多くなり負擔が重くなつた爲め整理したものと思はれる。續いて大正十二年、十三年、十四年、十五年、昭和二年の會議を擧て、昭和二年四月町田發坑に於ける大變災には臨時一人宛二圓を五十錢月賦にて掃徵し交際人死亡四十五名家族二十三名に香華料を贈つてゐる。昭和三年には山中分割又は團体退山を禁じ同四年には葬儀の飲酒、新盆の提灯、香奠返し、節句祝儀等を廢し緊縮の兆が見えたが、磐城炭礦會社は同五年之に代る親和會なる坑夫相互の救助慶弔機關を設けて直轄坑夫の友子制廢止の方針を樹てた。これに對し尚は引續き山中規約を改正印刷に附す等して統制を強めたが、昭和八年一月二十九日『交際中止の件右決議す』として歷史的な町田の交際友子制は廢止された。卽ち記錄はこゝまでになつてゐる。當時友子は約三百名あつたが、昭和七年十二月、八年一月の會議には約五十名集會したに止まり、親和會に壓倒されてゐたが交際費は當分必要であつた爲め一部額役が負擔する外なかつた。然し現に隣山の好間村に於ては好間第三斜坑交際所及び第一斜坑交際所、小田第二交際所及び第三交際所があり、小炭礦には尚は續行してゐるものがある

所秋卽事

珠雲　小野務平

秋塘碧漢片雲無
隄上行人汗似珠
湖亞香中涼自足
淸思一陣我忘吾

○故　青山皓月君悼章　二

平あけび會

香もなく病葉落ちぬ草の上　渡邊武門
ひくらしや今日も涙を新たにし　大方竹羊
秋ゆふに寂は深けれ新墓標　矢吹長貴

○九月三日皓月子の訃に接して　赤羽松堂
殘暑きびし汗は涙となりつゝるか

○皓月子かこの夏五月ころ小菴の菊の手入れを手傳はれ一日俳談に耽りたることなど思ひ出されて
菊咲かは菊に偲偲ふかや

○其折日向炎葵のたくましく伸ひたるをめてられし君は
日車のあはれ枯れたり秋の照り

太宰府から

エツチ・エス生

博多漉頭の古蹟を後にした予は歸途太宰府を訪ふことにした

途中珍らしい驛名である『雜餉隈』方には應神天皇御生誕の靈蹟宇美神社がある。車窓から遙拜し、次の水城驛に着いた、水城は往古外寇防備の爲め高さ五間、長さ六百間の堤防を構築して貯水を爲したるに因み此名があるのだといふ、文永の役には此處に敵軍を遮擊し亦た弘安の役には元の使俘百二十人を斬つた處だと傳へられてゐる、併し今は殆んど水田化して僅かに礎石を殘すのみである

水城の次驛が二日市である、太宰府へは此處へ下車して約一里の間自動車及び電車の便がある、太宰府は官幣中社太宰府神社卽ち菅原道眞公を祀つた天滿宮の在る處である

自動車を唐銅造りの大鳥居の前に乘捨てると暫くにして參道は左折して第二の鳥居を潛る。境內は實に森嚴にして神々しい鬱蒼たる苔むす巨木の渙り心字の池には反り橋が二ヶ所架つてゐる、之を渡ると左右に廻廊のある樓門があつて其の奧が本殿である。彼の『東風吹かば匂ひよこせよ梅の花、あるじなしとて春を忘るな』の歌に關連して趣味ある傳說で名高い、飛梅は社前に柵を繞らしてある

亦た『去年今夜侍淸涼』と吟ぜられた菅公謫居の趾は驛から十町程離れた所で其處には淨明堂といふ一宇が建立されてゐるが時恰も初秋親しく其の地に足跡を印するに方りそゞろに公の心事を追憶して轉た感慨措く能はざるものがある

其の寺の近くに苅萱の關跡がある、例の苅萱道心の加藤左衛門繁氏はこの守護の家に生れた人であるといふ

今の社殿のある所は公が謫居で薨去されるときの遺言に基いて遺骸を埋葬された處で卽ち公の廟所であるといふ

太宰府は應神天皇の朝に始めて都督府を置いて九州地方の諸國を總管し併せて對外の警備に任ずる太政廳の在つた所であるが、當年の面影今は何れに求むべき只樓門の礎石たりし一間四方位の巨石が處々に殘存するのみであつて、太宰府の名は遂に菅公によつて代表さるるに至つたかの觀がある

秋の賦

草間桔梗

A
白雲が分解作用をおこして——
空がプリズムになつて——

B
秋　秋　秋
脊草よ　香符よ
起重機のある風景よ

C
がつちりした筋肉
秋の大地

D
伸びる伸びる……
おゝ！ピリオットのない
秋の生命よ

9月23日
△ローマ帝國創建者オーガスタスの誕生（前六三）△賴山陽歿す（天保三）△博文立憲政友會組織（明治三三）△北鐵讓渡交涉成立（昭和九）

9月24日
△秀吉征韓の軍を發す（文祿元）△札幌に我國初のビール工場開く（明治九）△西郷隆盛城山に自刄す（同一〇）△縣議選投票を明日に坪二石の大雨（昭和一〇）

株ハ一株ヨリ、債券ハ一枚カラ賣買致シマス。
友部株式店
平町三丁目　電話一七七番

小說　高橋是淸 (125)

松浦泉三郞作
佐々木今朝吉畫

廢坑（四）

田島技師の聲に、瞬間、是淸は冷たいものを感じて

『う』

呟くやうに言つて目を閉ぢた

『申譯ありません』

田島技師は泣いてゐた

『先生が當會社に關係されやうなどとは、實は、思ひもかけぬ事だつたのです。お言葉の前に、私は辭します。言ふべき言葉を持ちません。先生、實地調査はしませんでした』

『しなかつた』

是淸の聲が慄へてゐた

『しませんでした。あの報告書は虛僞の報告書でした。ペルー礦山學校にあつた雜誌を、英語で讀み聞かされたのを、自分が、その儘飜譯して送つたのでした。調査は……調査はしませんでした』

『さうか』

答へたきり、もう、言ふ言葉がなかつた。不安が、辟易のやうに渦卷いてゐた。

——精練所や礦山の建築に就いての、請負人との交渉は着々進行してゐる。ミウルの大量購入に就いては、人を選んで間もなく出發と決定してゐる。精練機械その他の据付けは、既にガイヤル技師に公文の依賴狀を手交し、電報一本で契約は成立する事になつてゐる。從つて、本國東京の本社では、目下資本金拂込みの手配中だし、人夫輸送に關する汽船會社の見積書は來て居り、大略の決定は見てゐる。——かうした際の今の難問題だ

（どうすべきであらう？）

實際見當がつかなかつた

唯一つ、不幸中の幸ひだつたのはまだ改正條約の調印の濟んでゐなかつたことだ。が、それがどうしたと言ふのだ……。

『暫らく一人で考へさせて吳れたまへ。田島君、小池君も、一先づ部屋へ引取つてゐて貰ひたい』

二人を去らしめて、是淸は大きく嘆息した

考へたが考へつかなかつた

ふと、ガイヤル技師の事を思ひ出した。ガイヤル技師は、夙にカサバルカに歸る筈だつたのが、風邪の氣味で臥床し、その儘、リマのホテルに滯在してゐたのであつた。それを思ひ出した

（會つて見たら、又何かの參考になる事が、語られんこともあるまい……）

さう考へて、ガイヤル技師訪問を決意した時には、もう、夜は殆んど明け放たれてゐた

ガイヤル技師は臥褥中だつた

『その儘で結構と傳へて欲しい』

ボーイに言ふと、直ぐ引返して來て

『どうぞ』

と、先きに立つた

寢着の儘出迎へた技師は

『大變失禮』

『結構です』

技師は椅子を進めて

『大變早いですね。急ぎの御用件がありましたか？』

『實は』

是淸は飾り氣拔きで話した

『さうした經路を經て、我々の組合と、ヘーレン君と共同の下に礦山經營は企圖され、今日に至つたものです。既に我々の組合員は、全く田島の虛僞を信じて決意し、既に山代として、十二萬五千圓を支拂つたのです。然し改、めて自分を日本組合員代表として、改正契約を締結せしめ、又、礦山經營に當らしめんとして、當地に派遣されたのです。然るに小池技手の報告に依ると、ルビーシルヴァの沙汰ではなく、礦山は全くの廢坑と云ふ次第なのです。田島の報告は僞りだつたのです。……ガイヤル君、貴下はどう思はれますか？』

廣告

天下一品マヅイ
素人料理
おでん　榮ちやん
酒にやき鳥
冷ビールにサイダー
平・新田町・電三三番

磐城名物
靈峰羊羹
小川郷驛前
平屋賣店

美味デ滋養分豐富ナにんべんノ
新鰹節ガ出來マシタ。
宍戸屋商店
平町四丁目
電話（鹽干部）二一五番　（鮮魚部）四〇七番

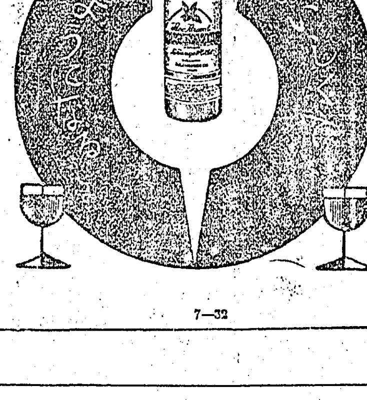
日華生命保險株式會社代理店
外務社員募集
（委細面談）

銅器・竹製品・籠盛花投入一式
生華用花器は
平町二丁目　和久井屋
電話四〇五番

高久病院
平町田町（電話五三一番）
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
内科　小兒科　外科　花柳病科　耳鼻咽喉科　レントゲン科

實家ハ靜岡產地ノ茶問屋
生產家カラ直接需用家ヘ
香味自慢生一本小笠銘茶
安價提供出來ル皆樣ノ店
買テ喜ビ賣テ喜ブ理想ノ店
卸小賣　大角園
平町搔槌小路

蜂ブドー酒（ハチブドーシユ）
おいしく召上つてゐる中に
お身体が御丈夫になります



7—32

開院廣告
平町　磐城共濟病院
電話六四一番
内科　院長　醫學博士　長谷部喜久
小兒科　醫學士　多田篤雄
外科　東京醫學士　市川繁
耳鼻咽喉科
性病科
產婦人科　醫學士　草刈邦彦
レントゲン科（毎週日曜日）　醫學博士　長谷部喜久
藥局長　藥劑師　吉本孝平
事務長　高畑清志
◎診療時間　午前八時ヨリ午後六時マデ
◎往診午後　急患ハ此ノ限リニ非ズ
▽病室完備、入院隨意△

大至急
會員募集
年齡、學歷を問はず堅實なる婦人を望む
上原家政婦會
平町紺屋町　電話二二番

和洋
家具　建具
椅子　テーブル
其他裝飾品一般……
御用命は迅速に御努め致します。

諸官衙
各學校
御用達
製作販賣
片寄製作店
平町五丁目四
片寄小彌太
電話四八四番

赤字續きの鐵道用迄 景氣奔躍一途增送へ
朗かな最近の石炭統計

石炭景氣正常復歸。前旬中盆休みが介在した爲少許の赤字を見せた常磐各山元の去る十一日以降二十日迄の發送高は

營業用－四、八三〇車 五七、九六〇瓲 省用－一、五二六車 一九、六五〇瓲 合計－六、三五六車 七七、六一〇瓲

で前年同期に比し

營業用－（增差）四三九車 三、六一二瓲 省用－二八車 三一三瓲 合計－四六七車 三、九二五瓲

で營業用のみか今旬中は常に減少の一途を辿り來つた省用迄少數乍ら若干の增加を示した程で今期の成績は前旬中の赤字統計を補塡し結局に於て上中旬合計僅かに六百四十五瓲の減少に過ぎぬ事になつてゐる

合併是非
逐次全村に亘る 平窪村の座談會
平町側成行き注視

合併か否か、過般の座談會によりその推移を刮目されてゐた平窪村では既報の如く中平窪部落がそのトップを切つてこの二十五日懇談會を催すがこの外決定した部落は

二十六日中鹽（小學分教場）三十日下平窪（諏訪神社）

殘る上平窪並に幕の內方部兩部落でも遲くも來月上旬迄に開いて夫々研究する事となつたと

石城梨子の出荷統制協議
郡農會意氣込む

郡下の梨子、年産五十萬貫中今年は二十萬貫を中央へ移出すべく意氣込んでゐる郡農會では十九日平園体事務所に郡下果樹組合首腦部技術員等五十名を招きこれが出荷統制に從來の部分的出荷は中央市場の組織改革や新產地の勃興等から觀て縣下を網羅した强力な販賣が必要であるとの見地から種々具体的な協議を交し、尚生柿、白栗馬鈴薯の共同出荷に關しても打合をなした

泉村納稅表彰。。。。 泉村納稅組合では廿日午前九時より同村小學校に於て組合長三十二名の表彰式を擧行記念品として一升入ニューム製藥罐を贈り終つて記念寫眞を撮影し盛會裡に終了した

縣有地借用願。。。。 江名町中の作港魚市場に氷置場を新築すべく地元區長各代表者が今二十二日平土木監督所に縣有地約五十坪の借用方を願ひ出た

『畜産好間』建設
資金貸付規定を設け 全村に養雞增殖普及

經濟更生運動も最近やうやく町村の當事者間に徹底しその施設の一端が有畜農業に現れた—好間村は郡下更生指定村中特に畜産方面に力を注ぎ村費を以て各種事業を經營し十部落には半額補助で共同作業場、農業倉庫が順次新設されてゐる程だが今回新に家畜資金貸付規定を設け從來移入に待つ外なかつた地元炭礦消費の鷄卵を村自身が供給する外養鷄增殖計劃を樹て三十二坪の共同育雛所を設置し村內の雛自給を行ふ事となつた

家畜資金貸付規程は縣下最初のもので各農家が牛、豚鷄を購入する際は村がその七割を補助し年五分の利子で資金を融通するものである

入山從業員の寄生虫調査
保有三百三十餘名

炭礦從業員の生活改善基本調査として縣衛生課では去る十四日から落合技師により入山炭礦從業員に對する寄生虫調査を行つてゐたが昨二十一日終了した

これによると檢査人員二千七百八十一名中十二指腸虫保有者はその一割二分を占める三百三十四名弱に上り其他蛔虫、鞭虫保有者頗る多く、職別にしては坑夫最多數で選炭夫之に次ぎ、地區別では運勤を第一に、背薬、八仙の順である事が判明炭礦では直にこれが撲滅對策に乘り出した、尙炭礦從業員に對する該調査はこれが最初である

豐秋を祝福する 上遠野の民謠大會
近く開催の準備進む

郡南菊田地方では今收穫季の豐作を見越し、各村早くも鼓腹撃壌の明朗な農村風景を醸出してゐるが、上遠野村大字瀧字菅利田（石工）熊長好及志賀安之助兩氏は之の豐秋を祝ふ村芝居の意味で近く郡南素人大家が出演の民謠大會を催すべく目下夫々準備中で日取り未定であるが、當日は相馬節を初め各自信ある各地の歌手が多數參集するらしく盛會を豫想されて居る

廣告研究會 七夕祭批判

平廣告研究會では昨二十一日夜七時から第四回例會をなかや洋服店方に開き、猪狩商工會長、武川、玉手兩平商教諭出席過般の七夕祭に對する批判會を開き盛會であつたと

俵米共販値
前回より若干高

石城販聯の俵米共販は今二十一日行つたが出荷四百八十三俵、相場左の如く前回に比し若干の高値を示した

平一一圓六〇錢 飯野一一、六四 鹿島一一、八二 大野一一、七〇、草野信用一一、六八、平窪一一、八四 草野農會一一、六八 勿來一一、六〇 同二號一一、六〇 平二號一一、四八

鯉釣大會 湯本町關船青年分團主催で同字榎の作地內溜池の鮒、鯉釣大會を二十三、四の兩日開催するが會費は二日間一圓、鮒は五年以上鯉は三年以上の大物

戸籍事務視察。。。。 泉村助役戸籍係松井清水、田人村蘭部書記の兩氏は此の度濱三郡より選拔され長野、群馬兩縣地方の戸籍事務視察のため出張する事となつた

女乍らも勳八等
平看護婦會のお嫁さんに 從軍記章と賜金の御沙汰

好間村平場一二三右衛門長女澁谷いと（三三）さん（平町南町平看護婦會長淸野きよ女史後嗣夫人東京市現住）および伊達郡藤田村中川原一九年七氏二女八島ちゑ（三七）さんは赤十字縣支部救護看護婦として安達郡岳下村櫻戸一三政吉氏五女齋藤とみ（三二）さんと共に滿洲事變に當り去る昭和六年十一月二十七日赤十字本社の編成した第二救護班に編入され翌二十八日東京驛發滿洲に派遣され十二月一日奉天着後鐵嶺衛戍病院および長春分院に勤務してわが出征將士中戰傷者の救護に日夜活躍し功を樹てゝ七年八月事變一段落を告げると共に凱旋した功勞により昨二十一日澁谷さんと八島さんは陸軍省から從軍記章と御沙汰書に賜金を添へて贈られ非常な面目を施した

なほ前記の內澁谷さんは歸還後縣支部から婦長候補者として東京本社の病院において養成を受け救護看護婦長の肩書きを持つ人で目下東京に居住し八島さんは東京に就職中であり、齋藤さんは更に再び渡滿し現に鐵嶺病院に勤務して傷病將士の看護に當つてをり今春勳八等に叙せられた

尊い權利を確保せよ 申告は他人事で無い
來春の町議選擧準備に當局の希望 新資格者は特に注意肝要

實質に於て第一次平市會議員の入物ためしである平町會議員選擧は明十二年新綠薫風の五月を以て行はれる筈で其の際の淸き一票を保際する町會並に衆議院議員選擧人名簿は、既報の如く去る十五日現在を以て調製する事となり過般來各區長を通じ各戸に資格申告書用紙を配付し目下夫々取纏め中であるが役場へは未だ三分の一程度に過ぎない、尤も右は申告書名簿調製上の便宜手段で役場としては之れ無くも前年の名簿等を參照し飽く迄調査の正確を期するわけであるが、新規の資格者に在つては當局の調査をより容易ならしむる爲此際進んで申告するが自己の選擧權を確保する所以であり是非勵行して欲しいと當局の意向である

秋！躍る健康
廿七日を皮切りに 各校の運動會

愈々天高馬肥の季節となつて日頃の出來榮へを見せる運動會が各學校によつて運營される、先づ平第三校來る二十七日の日曜をトしてトップを切り、第二校は來月二日、第一校は同八日、磐女は同十一日例年の十七日神嘗祭當日を繰上げて行ひ郡下小學女兒の二百米並に四百米繼走に歡喜を沸立たせる、次いで平商は開校最初の陸上運動會を同十三日同校庭に催し記念の出し物に觀衆の目を惹く外優勝旗爭奪の七百米瑞典繼走に之亦郡下小學兒童の胸を躍らせる、この他附近町村學校の運動會が前後して催される筈で兒童達の歡聲煙火の響きと共に連日秋の野山にこだまする事であらう

腐敗か有毒物か 中毒の原因調査
磐崎村民漸く愁眉を開く

『死の恐怖』磐崎村の折詰中毒事件は除幕式の十九日以來二十日夜にかけて益々擴大し全村を蔽はんばかりの慘狀を呈したが二十一日朝になつて漸く峠を越し重症患者は何れも危機を脫したので村民も死の恐怖から逃れる事が出來てホツと愁眉を開いた、事件發生以來現地に止まつて原因の調査を進めてゐた縣衛生課落合技師は今二十二日午後二時十五分發磐越線で歸縣、馬庭技師と共に折詰の分析を行ふ事となつたが、この結果により料理の腐敗によるものか、或は他の有毒物によるものか決定されるので各方面から注目されてゐる

過失傷害致死で送檢か

平署では引續き仕出人庄司落吉の取調べを行つてゐたが僅か夫婦二人で四百五十人分の大量注文に應じた點及折詰による中毒が確實となつたので近く庄司を業務上過失傷害致死罪として送檢する方針であると

搾取男の公判續行

內妻名義で貯金通帳の再交付を受けこれを拂ひ戾し且つ內妻との間に生れた子供を縱つて恐喝した平町材木町横田淺吉（三二）に係る文書僞造行使詐欺恐喝暴行事件は曩に平區の判決懲役二年に對し不服として控訴した公判は此程福島地方裁判所金裁判長係り石橋檢事立會で開廷されたが結審にならず來る二十六日續行開廷する事になつた

前借二百圓詐欺
暴行漁夫の餘罪判る

既報―去る十七日喧嘩の仲裁に入つた江名町北町漁業遠藤淸七氏を築港岩壁から突き落し瀕死の重傷を負はせた茨城縣川尻町生れ漁夫篠原次男（三〇）は平署で取調べの結果、去月末植田町小濱漁業鷲濟治氏方に至りアグリ船に乘り込む約束で五十圓を前借逃走した外七件二百餘圓の前借詐欺がばれ引續き取調中

賭博に罰金。。。。 內鄕村高坂魚行商鷲谷彌七（四二）同野祭行商松岡松治（四四）平町禰宜町魚行商高橋好勝（四四）內鄕村綴同高坂春吉（四二）湯本町上川同千葉勘太（五五）の五名は去る十九日夜鷲谷方で丁半賭博開張、鷲谷は四十圓他の四名は各二十圓又双葉郡上岡村上手岡農小室福治郎（三六）土工三浦久四郎（三八）農遠藤義淸（四〇）遠藤伊之助（四二）方日雇高橋讀之助（四二）の四名は去る三日伊之助方で丁半賭博開張、各二十圓。何れも此程平區より略式命令で罰金に處された

急所握りに懲役七年の判決
今日平支部で言渡し

急所を握り取押への警官を困惑せしめたばかりに强盜傷人、公務執行妨害といふ恐ろしい罪に問はれた當時住居不定無職伊達郡梁川町大町生れ宍戸一（三三）は今廿二日午前十一時半から開かれた平支部中島裁判長係り香西、野木兩判事陪席氏家檢事關與、酒井（官選）辯護士立會の公判で求刑通り懲役七年但し未決拘留三十日通算を言渡された

刑務所

平刑務支所では午前十時から所內に祭壇を設け吉岡所長以下收監者一同參列、服役中死亡した者の追善供養をなし在所者一同に精進の馳走を供した

平第二校 お彼岸詣り
けふ夫々の催し

午前十時より高二ノ二組兒童一同全校を代表して胡摩澤長源寺に奉職中死亡した村上德一氏の墓所に詣り慰靈祭を行ひ退職後死亡又は町外轉出の職員に對しては朝會の秋季皇靈祭に關する訓話の際遙拜を行つた、又本年度中死亡の兒童に對しては各組毎に夫々弔慰の催しあつた

三井タクシー 電話六八五番

漁夫來らす
青森保護組合に 石城各濱で非難

不漁續きに祟られて北海道の漁場を追はれた青森縣八戸地方の出稼漁夫救濟に關し小名濱、江名、四倉の各濱では平職業紹介所を通じ

小名濱二百名 江名二百三十名 四倉三十名

合計四百六十名を雇入れる契約であつた處最近八戸海岸一帶にイカの豐漁が續いたので俄に契約を取消しその全部がイカ漁に從事してしまつたので當て込んでゐた小名濱、江名、四倉の各濱では狼狽し相川、新潟方面からヤッ！と所要人員だけ狩り集める事が出來たが斡旋に入つた同地出稼人保護組合のこの契約を無視した態度に石城各濱では非難してゐる

。。。。海岸工事落札 江名町北町海岸災害工事の入札は二十二日平土木監督所で執行千四百十圓で同町鈴木省三氏に落札

天氣豫報 小名濱測候所

今晩は北の風晴

明日は北の風晴一時曇

二十三日（小名濱測候所發表）

日出 五、二五 月出後 〇、〇六

日沒 五、三三 月沒後 九、五五

滿潮 前九、一五 後六、四五 干潮 前一、五五 後二、五五

二十四日

日出 五、二六 月出後 〇、五四

日沒 五、三二 月沒後一〇、五二

滿潮 後七、二〇 干潮 前二、五五

新九月二十三日 水曜 舊八月八日 戊申 先負 八開 箕宿

▲一白 心に油斷なく緊張して事に當れば過ち無し▲二黑 成就難しと喋りし事も苦境に陷り易し▲三碧 引込思案を起さず細心に進み求めて功あり▲四綠 八方より誘惑の手ののび來る日動くは大凶▲五黃 我意を遂げんとせず長上の意見に從ふが吉▲六白 中心に誤さへこらば人々の引立あり▲七赤 よくわ尋はくは人にうとんぜられ發展の妨げとなる▲八白 賭事漫歩せんとする兆あり▲九紫 業を嚴しく守れ 奮勵努力すれば多少の無理も通る良好の日

諸判定總本部 東京市本鄉區湯島四丁目 高島易斷總本部 神號館

新九月二十四日 木曜 舊八月九日 己酉 佛滅 九建 斗宿

▲一白 勇氣に進めば失敗を生ず 耐忍努力は功現る▲二黑 外觀は樂の樣なれど內實は苦多し節約あれ▲三碧 巧言に誘はれぬ樣利慾のみにふけらざるが吉▲四綠 實直なれば發展の勢あれど金錢注意すべし▲五黃 總て意志と反對の結果を生ずる事多し▲六白 意外の手落を來す事あり物事進むは損なり▲七赤 兎角實益との緣ほうすし又文書の間違に注意▲八白 平安無事な所か安全努して功なき不運日▲九紫 勤めば成り成れば勇氣加はりて更に良化す

廣告

平町南町 大和田醫院 電話一七〇番

松村醫院 院長 松村鐵郎 平町南町 電一〇七

秋の行樂とスポーツ…好季來る
ハイキング新製品半靴 六、〇〇
同 編上靴 六、五〇
ルックサック ゲートル 服裝類 各 一、八〇より
大塚の學生靴
大塚の紳士靴
大塚の運動具
なんでも豐富に……
御用は 大塚へ
平田町銀座通り 電話七十七番

ラヂオノ季節 月賦販賣開始
歐洲ノ風雲急!!
日支モ亦然リ!!
早慶戰モ目前ニ迫ル！
實リノ秋
ソシテ一家團欒ノ秋
先ズ…オ備ヘ下サイ
……ナヽオラ電信機……
詳細ハ御一報次第店員仕伺御說明申上ゲマス。
遞信省公認 日東商會 電 四二八